

養成医かわら版
NEWSLETTER



自己紹介

名前: 藤原稜

勤務先: 兵庫県立丹波医療センター

診療科：内科

卒 後: 9 年目

経歴: 2017年 自治医科大学を卒業後、公立豊岡病院で初期研修、公立豊岡病院総合診療科で1年間前期派遣、公立香住病院で2年間前期派遣、兵庫県立丹波医療センター内科で2年間後期研修の後、同病院で後期派遣中。

地域の紹介：自然とカフェのまち、丹波市

兵庫県のほぼ中央東部に位置する丹波市は、豊かな自然と田園風景が広がる、とても魅力的なまちです。大阪や神戸からは車や電車でだいたい1時間～1時間半くらいで来られるので、都会に近い田舎「とかいなか」です。特産品も豊富で、丹波栗や丹波黒大豆は全国的にも有名です。最近では、おしゃれなカフェがどんどん増えていて、休日には美味しいコーヒーを飲みながらゆっくり過ごせる場所がたくさんあります。



丹波医療センターには、私のように小さな子供と一緒に丹波で暮らしている若手の先生が多いです。家族ぐるみで一緒に遊ぶこともあり、地域での暮らしでも孤立することなく、医師同士の繋がりを強く感じられるのが嬉しいポイントです。子育て支援も充実していますし、都市部へのアクセスも良いので、子育て世代にとっては住みやすい環境だと思います。自然の中でゆったり子育てしたい、でもたまには都会にも出たい、という方には最適ではないでしょうか。

当院の特徴・地域での学び：総合病院と診療所のハイブリッド研修

私は後期研修医として、丹波医療センターの内科で勤務しています。日常業務は、病棟管理や外来、救急対応が中心です。内科全般の患者さんを診させていただいていますが、各診療科の専門の先生方がたくさんいらっしゃるので、日々の診療で不安なことや迷うことがあっても、すぐに相談してしっかりフォローしていただける環境です。

当院の大きな特徴は、総合病院での勤務に加えて、市内の「ミルネ診療所」という丹波市立の診療所でも勤務をする点です。ここでは、地域のかかりつけ医として、プライマリ・ケア外来や訪問診療を担当しています。

丹波医療センターのような急性期も診る総合病院で幅広い疾患や入院患者さんを診る経験と、地域に根ざした診療所で外来や在宅医療を担う経験。この二つを並行して経験できる「ハイブリッド研修」ができるのは、貴重だと思います。病院と診療所、多様な場で患者さんと向き合うことで、どんな場所でも活躍できる医師になるための力が身につけていると感じていますし、1人の患者を急性期入院・慢性期入院・外来・在宅・緩和ケアと継続的にみることがするのも魅力で全人的・継続的な医療が自然と身につきます。

丹波医療センターの内科は、「内科は一つ」という意識が強く、専門科ごとの垣根が低いです。循環器や消化器、呼吸器など、様々な内科疾患について、専門の先生方に気軽に相談して指導を受けながら学ぶことができます。さらに見坂先生をはじめ、総合診療医が複数在籍し、患者さんを全人的に診る「ジェネラルマインド」を養うのにとっても恵まれた環境です。内科専門医や総合診療専門医、家庭医療専門医、病院総合診療医など、自分のキャリアパスに合わせて複数のプログラムを並行して研修することも可能で、内科医の基礎をしっかりと作るには十分な環境だと感じています。兵庫県地域枠の先生も多く、他科の先生方とも普段からコミュニケーションが取りやすい雰囲気です。

地域貢献・アカデミックな活動：地域と共に、学びを発信する

丹波医療センターでは、日々の診療だけでなく、地域への貢献活動やアカデミックな活動にも積極的に取り組んでいます。

総合診療科が中心となって行っている活動の一つに、丹波市の介護職員さんたちとの勉強会があります。月に1度、30名ほどの介護職員さんと、総合診療科の医師や院内の看護師が集まって、お互いの仕事内容や困りごと、知識を共有する勉強会を開催しています。医療と介護、それぞれの立場を理解し合うことで、よりスムーズな多職種連携に繋がっています。患者さんやご家族にとって何が一番良いかを、職種の壁を越えて一緒に考え、チームで実践していく実感が得られるのは、地域医療ならではのやりがいだと思います。また、丹波での勤務で得られた貴重な経験や症例、地域での活動内容を、学会発表や論文といった形で発信していくことにも力を入れています。日々の学びを形にして、自分自身の成長や医療の発展に繋げていくことができます。



地域医療・総合診療の魅力：目の前の「人」と「地域」をまるごと診る

地域医療の一番の魅力であり特徴だと感じるのは、「病気」だけではなく、目の前の「人」と、その人が暮らす「地域」をまるごと診る視点が不可欠だということです。高齢の方や独居の方が多く、医療だけでなく、福祉や介護の知識・理解が欠かせません。患者さんやご家族の背景、人生観を把握して、退院後の生活や人生のゴールを一緒に考えていくには、多職種の方々からの情報や、地域の様々な機関との連携が不可欠です。

都会の専門領域が細分化された病院では、自分の科以外の疾患は専門の先生に紹介することが多いですが、地域では主治医として様々な疾患の患者さんを最後まで診る機会が多くあります。感染症、心不全、糖尿病といったcommon diseaseはもちろん、比較的珍しい症例を経験することもあります。多様な症例を主体的に診られる経験は、内科医を目指す上でも非常に貴重だと感じています。

また、地域で当たり前のように行っている退院調整や、患者さんが急性期病院から療養施設、そして在宅へと移行していくプロセスに関わる経験は、大学病院などではなかなか得られない貴重な学びです。高齢化が進む中で、これらの経験は将来どんな場所で働くにしても必ず役に立つと思います。目の前のどんな人の、どんな状態、どんな問題にも、自分の力で対応できるようになりたい、地域をより良くしたい、という思いがある方には、きっとやりがいを感じられる環境だと思います。

メッセージ

丹波医療センターは、総合病院と診療所のハイブリッド研修、多職種連携、アカデミックサポート、そして何より温かいスタッフと地域の人々に囲まれた、学びやすく、働きやすく、そして暮らしやすい場所です。

「幅広い内科疾患を診る力をつけたい」「総合診療医としてのキャリアに興味がある」「地域に根ざした医療を経験したい」「子育てをしながら医師として成長したい」

もし一つでも当てはまるなら、丹波医療センターはきっとあなたの期待に応えられると思います。美味しいものも、美しい自然も、そして温かい人々もいる丹波で、私たちと一緒に地域医療を楽しんでみませんか？兵庫県地域枠の先生方にとって、丹波医療センターが魅力的な選択肢の一つになれば、これほど嬉しいことはありません。

